

開講期	2026年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	7427 開発経済学			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	3年/4年	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	金曜3限				
教室	J302教室				
代表教員	加藤 巖				
担当教員	加藤 巖				
テーマと到達目標	私達は、普段の暮らしの中で「飢え」や「生命の危険」を感じることはほとんどない。しかし、世界的に見て豊かな生活を享受できる人はごく限られている。そこで、世界人口の大多数を占める発展途上国の人々の暮らしについて知見を深め、自らができる貢献策について考える。				
概要	発展途上国の現状について深く考えてもらう。とくに、普段の何気ない私達の生活が如何に発展途上国の人々の暮らしに影響を与えているのかについて学ぶ。取り上げる題材は、バナナなどの食料品、スマートフォンやスポーツシューズなどの日常品である。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員 (複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	授業オリエンテーション			加藤 巖	対面授業
第2回	私たちの想像以上に大きな格差が存在する中、貧しい子供の未来について考えてみる。			加藤 巖	対面授業
第3回	チョコレートを生産・販売・流通を通して自由貿易のあり方について考える。			加藤 巖	対面授業
第4回	普段食べている白身の魚がどこからやって来るのかを知り消費者のエゴについて考える。			加藤 巖	対面授業
第5回	コーヒー農家ゲームを行なう。ゲームを通じて途上国の生産者の苦悩を知る。			加藤 巖	対面授業
第6回	政府開発援助(資金)を巡る課題に目を向ける。			加藤 巖	対面授業
第7回	ビジネスゲームを行う。ゲームを通じて勝者が全てを奪う現実について体感する。			加藤 巖	対面授業
第8回	開発経済学の立場からTPPについて考えてみる。			加藤 巖	対面授業
第9回	私たちの暮らす経済社会の二重構造について考える。			加藤 巖	対面授業
第10回	スマートフォンの原材料やダイヤモンドの発掘現場の知られざる真実を垣間見る。			加藤 巖	対面授業
第11回	日本人の暮らしが発展途上国からやって来る加工食品に依存していることを知る。			加藤 巖	対面授業
第12回	先進国の豊かな生活が自然環境に大きなダメージを与えていることを実感する。			加藤 巖	対面授業
第13回	アフリカの事例を通じて、望ましい相互依存について考える。			加藤 巖	対面授業
第14回	これからの望ましい支援のあり方について考える。			加藤 巖	対面授業
第15回	授業の振り返りとまとめ			加藤 巖	対面授業
成績評価の基準	講義への積極的な参加と期末試験(もしくはレポート)の結果を総合的に判断して成績評価を行う。随時小テストも行き、その点数も成績評価に加味する。				
履修にあたっての留意事項	時に授業内で取り上げる内容は不愉快なものを含む。予め了解してもらいたい。なお、(1) 授業の連絡事項は掲示板、和光ポータル、和光Gメールなどで行う。(2) 資料配布は印刷物配布なしは和光ポータルの<授業資料>機能を使う。(3) 対面授業を予定しているが、もし、オンライン授業に移行した場合には、同時双方向型授業(Zoomなどと和光ポータルを併用)を主体とする。(4) 自宅課題学習については授業期間中に指示する。(5) この授業は、実務経験のある教員による授業です。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	和光ポータルの利用に習熟しておくこと。また、新聞などで時事ニュースを読んでから授業に参加してもらいたい。		
教科書	指定教科書はない。適時、レジュメおよび資料を和光ポータルで配布する。	教科書(ISBN)	
参考文献	ジェレミー・シーブルック 『階級社会』 青土社 マイケル・トダロ 『開発経済学』 国際協力出版会 大海渡桂子 『日本の東南アジア援助政策 日本型ODAの形成』 慶應義塾大学出版会／電子ブック『日本の東南アジア援助政策 日本型ODAの形成』 	参考文献(ISBN)	

◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること
--------------------	--